

中国のゴールデンウィーク

上海駐在員事務所

秘書 魏 小暉

中国の法定休日は、国の祝祭日及び記念日を制定している『全国年節及び記念日休暇弁法の改定に関する国务院の決定』に基づき、毎年国务院が決定しています。同決定で制定されている祝祭日には、“新年”、“春節”、“清明節”、“労働節”、“端午節”、“中秋節”、“国慶節”（表 1 参照）などがありますが、中国ではこれらの祝祭日前後の休日（土曜日、日曜日）を出勤日とし、その代わり祝祭日前後の平日を振替休日とすることで連休とするのが通例（表 2 参照）となっています。そして、これらの連休の中でも“春節”、“国慶節”は中国のゴールデンウィークと位置付けられており、ここ数年連休中に旅行する人々が急増しています。

【表 1】同決定で制定されている祝祭日

祝祭日	時期	日数
新年	1月1日	1日間
春節	旧暦大晦日～正月2日目まで	3日間
清明節	旧暦の清明	1日間
労働節	5月1日	1日間
端午節	旧暦5月5日	1日間
中秋節	旧暦8月15日	1日間
国慶節	10月1日～3日	3日間

【表 2】2012年度の祝祭日前後の連休（振替休日調整後）

祝祭日	連休期間	日数	振替出勤日
新年	1月1日（日）～1月3日（火）	3日間	2011年12月31日（土）
春節	1月22日（日）～28日（土）	7日間	1月21日（土）、29日（日）
清明節	4月2日（月）～4日（水）	3日間	3月31日（土）、4月1日（日）
労働節	4月29日（日）～5月1日（火）	3日間	4月28日（土）
端午節	6月22日（金）～24日（日）	3日間	—
中秋節 国慶節	9月30日（日）～10月7日（日）	8日間	9月29日（土）

中国で初めてゴールデンウィークが誕生したのは1999年のことです。当時は、祝祭日のうち“春節”、“労働節”、“国慶節”のみを7日間程度の連休としていました。本制度導入の背景には、国民の消費活動を促進し旅行産業の発展を通じて国内経済の発展を図るとい

ⁱ 中国の国家行政機関。憲法、法律、法令に基づいて行政措置を規定し決議、命令を發布。

う目的もありました。同制度が導入されて以降、旅行客の増加に伴い観光地における観光施設や交通インフラの整備が進み、地域経済にも大きな恩恵をもたらしました。

しかし、ゴールデンウィークがもたらしたのは恩恵だけではありませんでした。年 3 回のゴールデンウィークは、旅行産業や小売業にとっては絶好のビジネスチャンスとなりましたが、一方で製造業にとっては大きな負担となりました。従業員が一斉に長期休暇に入るため生産ラインが完全に停止してしまうだけでなく、休暇が明けた後も安定的な生産活動ができるまでには一定の時間が必要となったのです。中国政府はこれらの問題を受け、2008 年から“労働節”を 7 連休から 3 連休とする代わりに、新たに“清明節”、“端午節”、“中秋節”を 3 連休とする制度をスタートしました。

この制度の導入により旅行者の分散化に一定の効果はありましたが、旅行者が“国慶節”に集中するなど新たな問題も生じさせました。これはもう一つのゴールデンウィークである“春節”が、中国では日本の正月に相当し、多くの家庭では一家団欒の時期として位置付けられていること、また、その他の連休についても 3 日間しかなく、広大な中国を旅行するには若干期間が短いという理由からです。さらに、中国経済の発展とともに旅行する人々も急増しており、“国慶節”期間中の旅行者も 2008 年に比べ 2 倍以上となっています。特に、今年は“国慶節”と“中秋節”が重なり、8 連休となったことにより、政府は小型車の高速道路利用料金の免除や観光地の入場料の値下げなどの景気刺激策を打出した結果、“国慶節”期間中の旅行者は昨年同期比 40.9%増の 4.25 億人にも達し、過去最高の人出を記録したのです。

今年の『国慶節』期間中に中国各地でおきた問題には「高速道路での大渋滞」だけでなく、「観光地における観光用ラクダの過労死」や「登山客数万人が夜中まで下山できなくなる」などの事象が発生しました。

現在、これらの問題を受け中国国内では、『労働節』の 7 連休の復活や休暇のさらなる分散化など様々な議論が起こっており中国国民の関心も高まっています。いずれにせよ、間もなく 2013 年度の連休スケジュールが発表されます。休暇を休暇らしく過ごすための新たな提案サービスなどは、これから中国で注目されるビジネスかもしれません。



以上